

令和3年度「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議 企画分科会（第3回）
議事録（要旨）

○日 時：令和3年8月31日（火） 16：00～17：00

○場 所：県庁4階特別会議室

○出席者：委員13名（うち1名代理出席）、知事

<意見交換>

○ 瀧修一委員

- ・ 観光業界全体の回復を見通すことはできず、新型コロナによる影響は計り知れない。業界関係者は先を見通すことができず、心が折れている。
- ・ コロナ終息の道筋が出てくると励みになり、モチベーション維持に繋がる。立ち直る状況を見据えて、回復後の需要を掴みたい。
- ・ 国内旅行は近場から増えてくると想定している。岐阜県は観光施設も多く、皆さんが観光に行けるようにキャンペーンができるとうい。国や自治体には誘客キャンペーンを継続してほしい。
- ・ インバウンドは完全に消失した。復活を期待しているが、世界観光機関の資料によると、コロナ前の水準に戻るのには、最短で2024年という予測もある。大阪万博の前年に当たるが、その程度の期間は必要という印象。まずは国内観光の需要が戻ることを期待したい。
- ・ 県内には観光産業が地域経済の核になっている地域も多い。関連産業を含めると地域の雇用や税収に繋がっている。コロナ後を見据えたかたちで、担い手を守り、地域経済を維持したい。国と自治体にはその支援をお願いしたい。

○ 櫻井宏委員

- ・ 農業界では、消費者が直接消費する内需と、外需（外食）という大きなマーケットがある。
- ・ 当初は、「巣ごもり」ということで活況があったが、外食が止まった途端に、需要が落ちてしまった。
- ・ 持ち直しの時期については、農業界だけでは見通しはつかない。
- ・ コロナ前には、外需の見通しがあったが、ストップしてしまった。インバウンドの高級志向がなくなり、飛騨牛などの需要が落ちた。
- ・ いずれにしても内需と外需の両輪で戦略を進めていただきたい。

○ 武田康郎委員（オンライン出席）

- ・ コロナ禍での対応については、前回の分科会での発言と同じ。
- ・ 状況はさらに悪化している。つまり、まったく終息の気配はなく、このタイミングで、分科会のテーマである課題の洗い出しやアフターコロナを論ずるには無理がある。

- ただ、連合岐阜では、生じている問題について、国や企業に対して、その都度、提言、要望を行っている。
- いつ頃になれば目途が立つのか心配されるところだが、緊急事態宣言の期限は9月12日とされている。まずはそこを一区切りとし、分析・考察するのが一つの方法ではないか。
- 県内における雇用状況は、正確に把握できていないが、季節工やアルバイトなどの非正規雇用の雇止め、解雇で対応していると認識している。都度適切に対応していきたい。
- この段階で懸念しているのは、第2次就職氷河期の到来。就職氷河期は、バブル崩壊による1990年代半ばから2000年代半ばに社会に出た方に影響があった。
- コロナによって、企業は2年程度、雇用を控えている。来年も同様に控える見込み。そのため、早くて3年、長くて5年、こうした状況に備える手立てをこの段階で検討すべき。
- DXは、社会、経済、暮らしを変えるため、有効な手段であるのは、間違いない事実。
- ただ、DX化という言葉は聞いたことがあるが、その背景は非常に難しいため、よく分からないという現状ではないか。
- 「DX化をどうやって具体化するか」が最も重要なテーマ。業務のバリューチェーンというものがある。(製造業でいえば)製品の開発、生産、販売を組み立てることが必要で、ここが甘いと見落としが出てしまう。同じように、DX化についてもステップを設けて、慎重に進めることが重要。
- 1つ目はバリューチェーン。2つ目は核となる人材の育成。3つ目は企業における資金調達。4つ目は全体をコントロールし活動を促進する部署の設置。
- このテーマほど産学官の連携が必要なものはない。企業、自治体、学者や技術者のシナリオ作りがこのテーマを促進するために重要。

○ 森健二代理（オンライン出席）

- 社会経済活動が持ち直す時期については、ワクチン接種の進捗や地域の医療体制に関わる問題が大きく関係しており、年末には出口が見えないかという希望はあるが、見通せない。
- ただ、困窮している観光、飲食、サービス業界への支援は最優先としながらも、色々な事業者の中には、ワクチン接種後の新たな地域づくりや経済再開のスタートが切れるように、将来に希望の持てるロードマップをなるべく早く示してほしいというニーズもある。
- 例えば、DX分野は相当なスピード感が必要。コロナ禍だからこそ、DXに関心が低かった小規模事業者もビジネスモデルの変革を迫られており、その必要性から、DXの取組みをキックオフするきっかけになっている。コロナの終息を待たずにDX化を進めてほしい。
- 新型コロナ対応をきっかけに、岐阜県は「オール岐阜」で物事を考え、進めていくという新たなノウハウが生まれ、行政と団体の連携も取れている。そうした中で、

アフターコロナの新たな取組みの発信を進めていただきたい。

○ 林正子委員

- ・ 村上啓雄先生と松島桂樹先生のご講演を伺い、次の事項についてご質問させていただきたい。
- ・ 高齢者施設の職員の接種率が低いのはなぜか。希望されているのに接種できないのか、事情を教えてください。
- ・ 自宅療養者が現在1,000人弱。自宅療養者が亡くなってから見つかったというニュースが続いている。自宅療養者に向けたマニュアル的なものが必要と考えるが、どのような発信をされているのか。
- ・ また、昨年度末、県立高校、特別支援学校には、一人一台タブレットが配られた。
- ・ 小学校においては、ICT環境をあらゆる学習の基本にしていくということで、ICT活用を指導できる教員の比率が、総合戦略の指標になっている。
- ・ 全員が精通する必要はなく、ICTの活用が得意な先生がリーダーシップをとり、順次普及したほうが、全体のスキルアップに繋がるのではないかと。

○ 村上啓雄名誉教授

- ・ 高齢者施設の職員には、若い女性職員が多く、ワクチンに不安があり、希望されずにきてしまった。県には優先的に接種いただいて解消されてきている。
- ・ 自宅療養者については、入院、宿泊療養、自宅療養と、きめ細かくトリアージしていただいている。
- ・ 主に20歳代、それ以下の方を自宅療養に振り分けている。宿泊療養からは、一日10件以上の入院が発生しているが、自宅療養者からは少ない。
- ・ 県の対策班では、70から80人くらいの職員が電話で経過観察する班がある。
- ・ また、自宅療養者の手引きを配布している。きめ細かく配慮しながら進めている。

○ 松島桂樹理事長

- ・ 基本的には、新しい道具を使って、すべての教員の方がより良い授業をしようと思っただけでいい。
- ・ 習熟度に違いがあることは前提として、取り組んでいただける方から、進めていただきたい。
- ・ しばらくは、アシスタントなどの支援を受けながら、最初に取り組んだ方のノウハウを共有いただきたい。

○ 石原美智子委員（オンライン出席）

- ・ 福祉施設職員のPCR検査を5月、6月に集中的にやっていただいたが、その後、実施されていない。
- ・ 現場が必要な時に検査してほしい。保健所が多忙のため時間がかかるのだろうが、長く待たされると、仕事を長期間休むことになる。
- ・ 家族の職場で陽性者が出た場合、濃厚接触者以外は私費でしか検査できない。現

場に添ったシステムをお願いしたい。

○ 上手繁雄委員

- ・ スケジュールについて、**参考資料1**は前回と同じものが示されている。行政としては、議決の5、6カ月前に議会への協議が必要だが、今の意見を聞いていると、この最中で骨子案を示すのは困難。
- ・ そうした場合、年度をまたいで、現行戦略の終期まで1年余を残して改訂することとなる。
- ・ その必要があるのか、判断が分かれるところ。それぞれ各分野の個別計画を見直して、政策を見直していくのであれば、総合戦略についてはそのままでも良いのではないか。
- ・ あるいは、終期を1年前倒して、新たな総合戦略を策定することも考えられるのではないか。
- ・ このあたりを行政で検討してほしい。ここで無理をしないで、いつ終息するか見極めたいので、最終結論を出した方が良い。

○ 森脇久隆分科会長

- ・ スケジュールについては、**参考資料1**にこだわらず柔軟に対応する。
- ・ 現行戦略は、2023年度まで計画期間があるため、それまでに新しい総合戦略ができれば、そちらに移行することもできる。そのあたりは事務局で検討いただきたい。

○ 古田知事

- ・ **参考資料1**のスケジュールどおり、3月議会で決める必要はないと考えている。
- ・ 新総合戦略をどこからスタートするのか、状況の変化を見ながら検討したい。
- ・ **資料4-3**は、提言を踏まえて、来年度以降の岐阜県のDXの方向性を整理したもの。これは骨子案であり、議会へ諮っていく。
- ・ こちらを各論的に深めていきながら、総合戦略をどうするか考えていきたい。
- ・ 今度の補正予算が今年度9回目となる。1か月に1回以上のペースで予算を出している。
- ・ 必要なものは、議会と相談しながら、知事専決によって柔軟に対応しているところ。
- ・ 昨年度も年間で12回補正予算を出している。必要な対策が見えてれば、足下の対策はやっていく。
- ・ 今後コロナがどうなるか、第5波の峠が見えているのか、越しつつあるのか、微妙なところ。
- ・ そのあたりの見極め次第で、9月12日の緊急事態宣言がどうなるのか。延長されることを念頭に置きながら、諸々の行事、政策展開を考えている。
- ・ いち早く国体が中止となり、ねんりんピックもその方向で検討している。秋の経済を活性化したいと思っていた事業もとりあえず抑え込んでいかなければならない状況。

- 第5波がどう終息して、ワクチンがどの程度行き渡って、第6波は抑え込めるのか、小さい波なのか、さらに高い波がくるのか、分からない状況。
- ワクチンについては、順調に進めてきたが、ここにきて接種能力に見合った供給がない。各市町村も苦勞しながら、どう優先順位を付けるのか。本当に苦勞しながら、やっけていただいている。せめて数カ月先の供給プランが出せないか国に要望しているところ。
- 先々の議論のことを言えば、コロナを経て、大転換を遂げていかざるを得ない。色々なものが変わっていく。
- 何が新しい課題になるか。例えば観光も従来の観光がいつ戻るかではなく、「新しい観光」を考えていくことが必要。
- DXが分かりにくいという意見もあったが、分かりやすい具体的なプロジェクトを提案してやっけていきたい。
- あらゆる分野にまたがっているため、「司令塔」プラス「オール岐阜」の推進体制をしっかりとって、地域に応じてやっけていきたい。
- いずれにしても、スケジュールについては、強引にまとめていくことはない。柔軟に対応していきたい。